

顛 末 書

名 称	岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設に伴う住民説明会
日 時	令和8年6月19日（金） 19：00～19：50
会 場	北部公民館
出席者等	・一般参加者 15名 ・総務課長、総務課長補佐、企画財政係担当、中野市担当2名 ・設計業務委託業者2名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 内 容 (1) 岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設について (2) 岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設 基本設計について ※質疑応答 4 閉 会
発言内容	別添のとおり

会 議 状 況


岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設に伴う住民説明会 会議録

1 開会（総務課長補佐）

2 あいさつ（総務課長）

3 内容

(1) 岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設について（総務課長補佐）

資料 1：岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設について

資料に基づき説明を行う。

(2) 岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設 基本設計について（総務課長補佐）

資料 2：岳南広域消防本部及び中野消防署庁舎建設 基本設計

資料に基づき説明を行う。

【質疑応答】

参加者 1

総事業費約 51 億円の財源はどのように考えているか。また、現庁舎を更地にして地権者に返還する際の解体費用等はどう考えているか。

（総務課長）

財源については起債と一般財源で考えています。起債は主に緊急防災・減災事業債を利用する予定で、実施設計、庁舎、用地、造成、外構、無線などが対象になります。充当率 100%、交付税算入率 70%と非常に効率の良い起債です。大まかな内訳としては、起債が約 40 億円、一般財源が約 11 億円、うち交付税で約 15 億円を見込んでおります。また、現庁舎は更地にして返す予定で、解体費用は約 2 億 4,000 万円を見込んでおります。

参加者 2

最大 6.38m の浸水想定があるとのことだが、現庁舎と新庁舎での高低差はどのくらいあるのか？

（総務課長）

現庁舎の海拔は約 300m 強です。新しく移転する新庁舎の仕上げの高さ海拔は 357.2m で計画しているため、計算上は約 50m 高くなります。

※ 正規標高（海拔）：【現庁舎 337.1m】【新庁舎が 357.2m】【高低差は 20.1m】

参加者 3

雪対策のロードヒーティングについて設置も検討となっているが、当初の工事費には含まれているのか。土地を整地するなら最初から設置した方が良いと思うが、なぜ検討となっているのか。

（総務課長）

ロードヒーティングの設置費用は、提示している総事業費 51 億円の計算に含まれております。検討としているのは、熱源をガスにするか電気にするかといった種類や、敷設する面積などの詳細を検討しているという意味であり、設置する方向で金額は算入してあります。

参加者 4

岳南広域消防組合として、中野市と山ノ内町でお金を出し合うと思うが、どれぐらいの割合になるのか。

(総務課長)

負担割合は、分担金の割合になっています。現状、組合では基準財政需要額割という形で配分しています。分担金の中身としては用地、建設、経常経費に分かれています。用地については中野市が全額負担します。建設にかかる分については全体を面積割で計算し、中野消防署の分は中野市が負担します。残りの消防本部にかかる建設費については、均等割 30%、残りの 70%を人口割で按分する形になります。現段階の試算では、中野市が約 44 億円、山ノ内町が約 7 億円を負担する見込みです。

参加者 5

基本設計のコンセプトにある「集まる、繋がる」というのはどういう意味か。また、消防団のスペースを設けるということか。

(総務課長)

消防の仕事は、消防団や防火対象物、危険物関連など 1,000 人を超える様々なコミュニティが繋がって成り立っています。そうした皆さんが仕事がしやすく、繋がりやすい職場づくりを目指すという意味で、このコンセプトを立てました。中野消防署の中には消防団のスペースも設けます。屋外の操法用スペースは北信協会にも提供し、北信地域の消防団の施設としても使えるように設計しています。

参加者 6

ヘリポート部分は平で水利もあると思うが、ポンプ操法大会は行える構造なのか。

(総務課長)

広いスペースは色々なことに活用できます。ヘリポートもそうですが、お話のあったポンプ操法大会や色々な訓練場所として使用できると考えています。

参加者 7

令和 10 年頃から建設工事が本格的に始まると思うが、その建設期間中の中野市と山ノ内町の手当金はどれぐらいになるのか。

(総務課長)

建設工事は令和 9 年度と 10 年度の 2 年にわたって債務負担行為で行います。起債の償還が始まるのは令和 12 年度からです。分担金として工事期間中に直接影響が出るのは、一般財源の部分になります。概算ですが令和 9 年度は一般財源約 1 億 8,000 万円、起債約 9 億円で合計約 10 億 8,000 万円。令和 10 年度は一般財源約 3 億 6,000 万円、起債約 18 億円で合計約 21 億 7,000 万円の財源を見込んでおります。

参加者 8

資料にあるリラックスルームについて、緊急出動や悲惨な災害現場から帰ってきた職員がしっかり休憩できるような施設を充実してほしいがどうか。充実した空間があると消防士になりたいという方も今より出てくると思う。

(総務課長)

おっしゃる通りです。災害現場から帰ってきた職員がリラックスでき、ディフュージングを行って心的外傷が和らぐような、そしてフラットな気持ちで次の災害に向かえるようなスペースを計画しています。今までにない質の高い空間を考えております。

※ ディフュージング＝心理的ケア